

令和7年度川崎市再犯防止推進会議 会議録（要旨）

■懇談会名称

令和7年度川崎市再犯防止推進会議

■開催日時

令和7年8月27日（水） 午前10時00分から午前11時45分まで

■開催場所

川崎市本庁舎復元棟302会議室（オンライン併用）

■出席者

別添のとおり

（事務局）

健康福祉局地域包括ケア推進室 菅野智宏、清水奨、野本真由美、松井豊太、河津由香

（傍聴者）0人

会議経過

1 開会

2 あいさつ

地域包括ケア推進室 菅野室長からあいさつ

3 議題

（1）川崎市再犯防止推進計画の取組状況及び評価について（公開）

事務局から資料に沿って説明。以下のとおり、出席委員から質問・意見あり。

- （横浜少年鑑別所 鍛冶委員）重点項目4「（1）民間協力者の活動の推進 ○市内更生保護関係団体への支援について」。具体的な取組を紹介いただいたので、評価の方にも詳細に記載いただければ良いのでは。
→（事務局）説明した取組内容について評価の方に記載する。
- （川崎自立会 野口委員）重点項目1「（1）就労の確保 ○保護観察対象者の本市会計年度職員としての任用について」。川崎自立会から対象者がいたが、川崎市の動きが遅く2・3か月たっても動きがなかった。更生保護施設では入所期間が決まっており対象者には時間がない。観察所からの推薦もあり良い青年だった。市につなげられればそこから本人の人生が始められるのではと考えていたため残念。最終的に別の雇用につながった。
→（事務局）当室には情報が入っていなかった。当室の方にも情報共有いただければ動けることもあるので、今後も情報共有させていただきたい。

（2）各団体における取組報告（公開）

田園調布学園大学 BBS 会顧問 長谷川委員から資料に沿って説明。資料への補足説明は以下のとおり。

- 新宿で保護司としてケースを持っている。自身が大学の時にも BBS 会として活動していた。

- BBS 会の会員数が学年上がるごとに減少してしまうことについて。BBS 会への志望動機が、非行少年と関わりたいというものが多いが、近年非行少年が少ない・コロナ禍等を受け、実際の関わりが少ないことから、他のサークル・ボランティアに流れていってしまう等の現状がある（全国的な傾向）。現在大学 4 年生の会員は、全員心理系の大学院へ進学予定。うち 1 名法務省の心理職希望している。
- 法務省委託薬物依存回復訓練について。若者・大学生ならではの関わりができています。学生も自分の役割を分かっていくためお互いに良い影響がある。12 月の日本更生保護学会で発表予定。
- その他。長谷川ゼミの学生が、川崎ダルクに半年ほどボランティアを行い、卒論を執筆し最優秀賞をとった。卒論内容は「子供の依存と自立、薬物依存の方の依存と自立について共通点があるのか」。BBS 会の方でも川崎ダルクとの関わりができればと考えている。以下のとおり、出席委員から質問あり。
- （市更女 原委員）法務省委託薬物依存回復訓練について。具体的にどんなことをされているのか。
 - （長谷川委員）毎月第 2 日曜に時間 90 分程度で、対象者 5・6 人が 1 か月間にあったこと（悩んだこと・頑張ったこと）を順番に話していく。保護司や観察官ではなく、ただの若者とお話することが対象者に良い影響を与えていると思う。
 - （原委員）更女会として川崎ダルクと料理教室で関わっている。更女会はお母さん。BBS 会は弟・妹のような存在。何の偏見もなく関わることは、出所者にとって本当に嬉しいことのように。川崎ダルクでボランティアや実習できていた他大学の学生と関わったが、本当にまじめに取り組まれていた。
 - （長谷川委員）弟・妹のような存在で関わっていきたいと思っている。
- （市保護司会 壁委員）麻生区保護司会でお世話になっている。7 月の社明運動の啓発活動では、BBS 会 6 名の学生に来ていただいた。麻生区長も喜んでいました。
 - （長谷川委員）保護司会には大変お世話になっている。麻生区保護司会とはコロナ禍で関わりが切れてしまったところもあるが、今後、麻生区での実施するニーズ発掘調査等の際には御挨拶に伺いたい。社明運動の啓発活動の際にはまた色々協力していきたい。
- （鍛冶委員）薬物依存回復訓練のねらいを教えてください。困っている時に SOS を出すのが苦手な方が多いので、そういった方が発言できるようにすることか。
 - （長谷川委員）保護観察の特別遵守事項で来る方が多い。訓練参加前には尿検査を実施。大きな機能として居場所の提供。保護観察期間終了後に任意で来る人も増えている。家族を安心させるため。家・職場以外のサードプレイスの提供。
 - （鍛冶委員）訓練の位置づけについて。保護観察所も訓練対象者を選定して取組を行っているが、それを補完するようなものなのか、そのプログラムそのものなのか。すみ分け・連携などあるか。
 - （長谷川委員）観察所がなぜ対象者として選定してきたかは聞いていない。対象者の経緯等は簡単に聞いている。観察所も別でプログラムを実施しているが、本訓練参加者はそれには参加されていない。訓練実施後は報告書を作成し観察所に提出している。

- (横浜保護観察所 鍋島委員) 横浜保護観察所では BBS 会へ依頼することはない。本件は東京保護観察所の委託であるため承知していない。
→ (長谷川委員) 大学の長谷川研究室に依頼を受け BBS 会につなげている。
- (長谷川委員) 立川支部の統括官が熱心な方で、長く付き合いがあったため、依頼を受けたという経緯がある。
- (県就労支援事業者機構 山口委員) 神奈川県更生保護協会会長として BBS 会の研修会等に呼ばれることがあるが、その際、地元に戻ったらぜひ保護司になってほしいと話をしている。
→ (長谷川委員) 大学の学生には、卒業後 10 年地域のネットワークに根ざしたら保護司になってほしいと話をしている。
- (事務局) BBS 会に入るきっかけがあれば教えてほしい。
→ (長谷川委員) 本大学には人のために何かをしたいという学生がくる。非行少年という他の福祉的な対象者の中ではイメージしづらいところがあるが、興味をもった学生を実際の活動につなげられればと考えている。社明運動での活動もそうだが、実際の活動の場があればぜひ紹介いただきたい。

(3) 事例報告及び意見交換 (非公開・事例報告及び意見交換について、実際にあった事例を扱うため、個人の特定防止の観点から。)

(4) その他 (公開)

- (鍋島委員) 川崎市に対して再犯防止・更生保護分野への支援についての御礼。
- (事務局) 次回会議 (1~2 月頃開催) の案内。次回会議での取組報告及び事例検討での希望するテーマについて伺った。
→ 特段意見なし。事務局から別途個別に御依頼する。

以上

川崎市再犯防止推進会議委員名簿

敬称略

令和7年8月27日

	氏名	所属 職名等	代理出席	御出欠
1	安藤 久美子	東京科学大学 准教授		オンライン
2	狩野 直哉	神奈川県弁護士会 会員		会場
3	清水 弘子	法務省関東矯正管区更生支援企画課 更生支援企画課長	矯正専門職 松本 理	オンライン
4	鍋島 博之	横浜保護観察所 次長		会場
5	大津留 寿弥	横浜刑務所 調査・支援部 首席矯正処遇官		御欠席
6	鍛冶 龍男	横浜少年鑑別所 地域非行防止調整官		会場
7	片野 達也	横浜地方検察庁 川崎支部長		御欠席
8	土野 有子	川崎公共職業安定所 管理部長		会場
9	壁 宣昭	川崎市保護司会協議会 会長		会場
10	原 双葉	川崎市更生保護女性連絡協議会 会長		会場
11	邊見 洋之	川崎市社会福祉協議会 常務理事		会場
12	山口 信郎	NPO法人神奈川県就労支援事業者機構 会長		会場
13	前田 恵美子	神奈川県地域生活定着支援センター 相談支援員		会場
14	野口 泰正	更生保護法人川崎自立会 施設長		会場
15	岡崎 重人	NPO法人川崎ダルク支援会 理事長		御欠席
16	山口 耕樹	中高年事業団 やまて企業組合 川崎支店長		会場
17	長谷川 洋昭	田園調布学園大学 子ども未来学部 教授 (田園調布学園大学BBS会顧問)		会場
18	皆川 智之	公募委員		オンライン
19	飯淵 廉	横浜少年鑑別所 専門官		会場